

令和8年度 見附市立今町小学校 学校経営方針

見附市立今町小学校 校長

教育目標

つよく さとく やさしい子

1 教育目標と目指す姿

- 「つよく」: 困難に負けない心と身体→しなやかな強さ(レジリエンス)
- 「さとく」: 学び方を学び、身に付けた力を活用
- 「やさしい」: 自他を思いやる心

(1) 子どもの姿

- ①失敗から学び、次にどうするかを考えられる。
- ②課題に対して、自分で考え、行動し、解決しようとする。
- ③身に付けた力を、他の学習や生活の中など活用、応用できる。
- ④「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言葉にできる。
- ⑤困っている自分や友達に気づき、相談したり、自分にできることを考えたりして、行動できる。(自分も他者も大切に)

(2) 手立て

- ①「失敗の中から学ぶ力」「失敗から立ち直る力」を付ける。失敗しても「学びの機会」として捉えられるように、結果のみで評価せず、過程を認める。
「事実の受け入れ」→「感情の整理」→「原因の分析」→「対策の立案」→「再挑戦」のサイクルを大切にする。
- ②自分で考えるための視点を与える。
「自分の考えをもたせるための工夫」「自分の考えを話したり、具体物を使ったりして分かりやすく発表したり、相手の話を聞いて、理解したり、自分の考えと比べたりするなどの力」
「課題を解決するために、どのような力(方法、過程)を使ったのか、振り返る活動」
- ③考え方が身に付いたのかを確認するとともに、別の課題でそれらが活用されているか確認する。
- ④感情の言語化や「誰かの役に立つ喜び」の実感、何より大人が手本となる。

2 重点目標

○学習したことを活用し、互いに高まり合う子

授業を大切に、そこで学んだことを活用することにより、一人一人の学びの定着と多様な視点から考える力を身に付けます。一つの考え方に固執せず、様々な角度から考えることにより、自分や他者のよさを実感したり、失敗したとしてもそこから学ぶ力やそれを生かそうと切り替えたりする力を大切にします。

3 基本的な構え

(1) 教職員として

- ①「反省」はするが「悩まない」。失敗を責める文化を捨て、次の一手を考える「アントレプレナーシップ」を自ら体現する。自分を許し、経験を糧にする。
- ②「自分」で決め、「自分」に期待する。誰かのせいにならず、自律的に判断する。他人に過度な期待を押し付けず、今の自分のベストに自信を持つ。
- ③ 褒め言葉や感謝の言葉はすぐに出す。
- ④ 自分の健康や機嫌を整える。

(2) チーム今町として

- ①学年担任制・教科専科の徹底:「学級を育てる」から「学年で育てる」へ。
朝・給食・帰りの会のローテーションや授業交換により、多角的な視点で子供を捉える。
「朝の会・給食・帰りの会」の入れ替え(連絡帳や宿題の確認、保護者との連絡など)
「道徳」は一つの教材を2つの学級で授業(教材研究の時間減)

他にも、研究授業で実践したことを隣の学級でも実践するなど、個々で頑張っていたことなどを広めるようにする。

また、学年を超えた授業交換についても検討し、いろいろな先生がいろいろな学年の児童と交流する機会を増やす。

②「完璧」より「完了」: 膨大な準備で疲弊するより、まずは形にし、実践しながら修正する。行事も授業も「時間内でのベスト」を目指す。

③主任の仕事はコーディネーター: 主任が仕事を進めるのではなく、チームに仕事を割り振ったり、話し合ったりして、自分がいなくても仕事が進むようにする。

(3)指導について

①「何ができるようになるか」の明確化: 宿題や活動の目的を明確にする。形骸化した「いいところ発表」や「終わらせるだけの宿題」は、目の前の児童の実態に合わせて勇気を持って修正・廃止する。

②「待つ」指導(啐啄同時): 教師が枠にはめるのではなく、子供が自ら動く瞬間を大切にす。先生の手を離れたときに、子供たちが自ら考えて動ける力を育てる。

③複線型授業(個別最適な学び): 一斉指導だけではなく、子供が自分のペースや方法を選択できる授業を展開。「自分で考えて、自分で決める」経験を授業の日常に組み込む。

④「授業で育て、行事で活かす」への転換を推進する。行事のための練習に時間を費やすのではなく、日々の授業で培った「思考力」や「判断力」を、行事という実践の場で発揮させる形を目指す。

自分の思うようにならないとか、いくら教えても成果が上がらないとか、そういうことに教師は驚かないようにしたいと思います。一生懸命やれば必ず成果が上がるわけではないからです。思うようにならないのは当たり前のことなのに、どうしてかそれが我慢ならないようになって、あれだけ教えたのにこんなだ…そういう失望のしかたが、教師の場合、少し大きいように思います。教えたことは全員が必ず同時に、いっせいに、心から受け取ってできるようになる、それが当たり前と教師は思っているところがあります。それで、できないとびっくりしたり腹が立ったり悲観したり、いろいろなことが起こるわけです。用意、ドン! で厳密に同じ瞬間に出発させても、そしてみんな力いっぱい走っても、ゴールインはまちまちでしょう。そのように、同じ時、同じ話を聞かせても、同時に同程度にわかったりできたりしなくても当たり前で、驚くほうがおかしいのではないのでしょうか。(大村はま『教えるということ』より)

⑤教職員一人一人が、その時々「学校の顔」であることを自覚する。

・保護者や地域の方々、来校者、電話等における丁寧な対応・言葉遣い

・教職者として、子供の模範となる適切・丁寧な子供への接し方や行動、言葉遣い【服装、名前の呼び方、不適切な言葉の排除、勤務時間内外における行動の在り方、日々の授業における誠実な取組、子供の模範となる率先したあいさつ、子供への対応など】

・県教委、市教委の通知の順守(提出日の厳守なども)

⑥今町として取り組んできたことは大切にす。

1, 2年生 花の活動 野菜の活動

3年生 ベと人形 三角だるま(天神祭り)

4年生 防災スクール 凧づくり

5年生 凧揚げ どんと焼き

6年生 SDGsの活動 10月の学校運営協議会での発表 善行表彰への出席

※ありがとうを伝える活動(見守りボランティア・バスの運転手など)

※「今小っ子音頭」については、歌唱を1, 2年生で指導していただき、全校で歌う時に伴奏をしてもらう。

ボランティアの方々等へのありがとうの会は、それぞれの学年で実施